

令和 5 年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立信太山青少年野外活動センター
施設所管課・担当	こども青少年局企画部青少年課（青少年企画）
条例上の設置目的	野外活動の場を提供することにより健全な青少年の育成を図ることを目的とする。
業務の概要	(1) 青少年の野外活動のための施設を提供すること (2) 青少年の野外活動に関する相談及び指導 (3) 青少年の野外活動の機会の提供 (4) 青少年の野外活動に関する指導者の育成 (5) その他市長が必要と認める事業
成果指標	年間利用者数（全体）／宿泊室稼働率（青少年の家）
数値目標	78,000人／74.0%
指定管理者名	一般財団法人 大阪市青少年活動協会
指定期間	平成31年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月31日
評価対象期間	令和5年 4 月 1 日～令和6年 3 月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	年間利用者数 （全体）	宿泊室稼働率 （青少年の家）
数値目標	78,000人以上	74.0%
年度実績	59,208人	60.4%
達成率	75.9%	81.6%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	59,208	60,922	-1,714
稼働率	60.4%	57.7%	2.7%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	60,754,426	60,973,862	0	
	計画	60,754,426	60,973,862		
利用料金収入	実績	20,708,730	19,288,680	-6,036,970	・ 工事等による数か月の休館期間があったため。
	計画	26,745,700	26,256,000		
その他収入 （自主事業収入）	実績	37,360,897	35,102,244	-7,924,573	・ 工事等による数か月の休館期間があったため。
	計画	45,285,470	44,395,695		
合計	実績	118,824,053	115,364,786	-13,961,543	
	計画	132,785,596	131,625,557		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	53,178,682	51,711,976	-3,498,118	・ 効率的な人員配置、変形労働時間制導入による人件費の減
	計画	56,676,800	56,676,800		
物件費	実績	35,087,901	32,350,076	-275,379	・ 施設利用人数の減に伴う光熱水費の減等
	計画	35,363,280	34,984,880		
その他事業費 （自主事業支出）	実績	30,532,610	31,271,429	-10,212,906	・ 施設利用人数の減に伴う給食提供の減等
	計画	40,745,516	39,963,877		
合計	実績	118,799,193	115,333,481	-13,986,403	
	計画	132,785,596	131,625,557		

令和 5 年度 指定管理者年度評価シート

4 管理運営状況の評価（1次評価）

(1) 成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
年間利用者数	75.9%	C	・ 青少年の家においては管理棟・体育館における屋上防水工事、床改修工事、冷温水機改修工事等により 1 1 月～3 月まで休館を行った。またキャンプ場においても電気設備改修等により 1 月～2 月は休館を行った。 ・ 過去の利用実績をもとに、上記休館期間における利用想定数を見込んだとしても達成率は90%に満たない。
宿泊室稼働率 (青少年の家)	81.6%	C	改修工事等により休館した期間（11月～3月）を除いて算出したが、90%以下の達成率となった。

(2) 市費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
【人件費】 ・ 効率的な人員配置、変形労働時間制導入により人件費の縮減を図った。 【物件費】 ・ 各種設備の維持点検や保全業務について、入札又は複数の事業者からの見積合わせにより、適正な業務水準を確保するとともに、最も安価な事業者を選定した。 【その他】 ・ 物価高騰による光熱水費の増加等により管理に要した経費等の収支差額が収支不足となるも、利用者のニーズに合わせたさまざまな野外活動プログラムを提供することによる自主事業の収入増を図り、全体の収支均衡を実現した。	B	

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	
事業計画の実施状況	B	・ BBQビレッジについて、土日祝はバーベキュー利用の一般団体を受け入れ、季節に合わせたイベントや体験学習を実施し、平日は一般団体の日帰りサイトとして主に遠足や校外学習の受け入れに活用した。 ・ 近隣公共施設で開催されたイベントへのブース出展を通じて、施設や活動プログラムの広報や魅力発信を行った。 ・ 学校園団体向けに火おこしやビザづくりなどの付加価値の高い体験活動を、スポーツ団体には給食増量メニューを提供するなどニーズに応じたサービスを提供している。
施設の有効利用	A	・ 近隣公共施設（大阪府立弥生文化博物館、泉大津市立池上曾根弥生学習館）や和泉市との連携・協力（イベント等への参加協力等） ・ 和泉市立中学校との連携・協力 ・ 幼児の自然体験プログラム提供（2園） ・ 職場体験学習受け入れ（信太中学校）
社会的責任・市の施策との整合性	B	

令和 5 年度 指定管理者年度評価シート

5 利用者ニーズ・満足度等

【利用者アンケート】

- ・スタッフ対応：満足 87%、普通13%
- ・施設利用：満足 84%、普通 14%
- ・その他、感想・意見

「子どもたちが協力して活動でき、またやりきること、非常に達成感を味わうことができました。1つ1つ丁寧に指導いただき私たちも大変心強かったです。今回の火起こしや自炊を次の学年にもぜひ体験してもらいたいの、次回へ引継ぎをしたいです」、「どのプログラムも職員の方がとても丁寧に説明指導していただき、また子ども中心に対応してくださりがたかった」、「子どもたちが毎回楽しみにしている合宿なので、次回もよろしくお願いします」、「スタッフの方の指導のおかげで子どもたちが自発的に部屋の掃除や野外炊飯の活動を行うことができた」、「火おこし体験について、何度か失敗しましたが最後に火がついた時、子どもたちの笑顔がとても良かったです」など、肯定的な意見が多かった。

6 外部専門家意見

- ・本施設は、学校や青少年団体など青少年による利用が中心であり、青少年の健全育成という設置目的に沿って、重要な役割を果たしている。
- ・休館期間中に取り組んだスタッフのスキルアップ研修等の成果を生かし、引き続き、利用者満足度を高めるようなプログラムを実施してほしい。
- ・最寄駅から施設までの徒歩移動の負担が大きいため、バスの借り上げが難しい小規模な団体であっても利用しやすくなるような工夫を検討してもらいたい。
- ・少子化やコロナ禍の影響で、1団体あたりの利用人数が減ってきているので、利用者数を成果指標とするにあたっては、目標数値の設定について検討してほしい。

7 最終評価

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	C	・成果について適正に評価を行うためには、現状を踏まえた成果指標の検討が必要である。
市費の縮減	B	
管理運営の履行状況	B	・学校向けの説明会や近隣公共施設でのイベントブース出展など、幅広くPR活動を行っている。 ・日帰り利用の促進（チラシ配付や説明会の開催等）にも努め、大阪市だけでなく近隣自治体の学校における日帰り利用者が増えている（対前年2653人増）
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価	B	